

ヴァレリー レオナルド・ダ・ビンチの方法への序説

ポール・ヴァレリー（1871－1945）は、詩人であるとともに20世紀のフランスを代表する文人であり知識人である。

人間の可能性を『レオナルド・ダ・ビンチの方法への序説』（1895年）、『テスト氏』（1896年）を発表した文人の時期と詩集『若きパルク』（1917年）など知識人活動としてもすぐれた業績を残した。

ヴァレリーは『方法』において芸術作品と科学の成果のあいだに両者が分化する前に駆動している精神の同一の働きを想定した。

作者の意図を超えた作品受容の可能性を述べる「構築」という概念は新しい受容理論の先駆けとなった。

また、作品の自律性を保証する最小の概念が「装飾」であり、通常の事物の様態から離れて文様と化した抽象性のなかに、芸術作品をその名に値するものとする「効果」の源を見いだしている。

装飾として残存するパターンが与える美的効果と、抽象化された現実性のイメージについて理論的に述べられている。